

自然に寄り添う元東電技術者が語る

脱原発と私たちの暮らし

講師 木村 俊雄さん

(元東電技術者、蓄電方式の太陽光発電を創り土佐清水市で自給自足の生活)

日時 7月15日(日) 13時開場 14時開会～17時閉会
会場 生涯学習総合センター3F (小倉北警察署横)

参加費 600円 (コーヒー付き、学生無料)

原発を知り尽くした元技術者・木村俊雄さんのコメント

原子力委員会の先生や原子力保安員は、知識も技術もありません。東電のいうままにハイハイと検査して、印鑑を押す。効率の悪いプラントは、計算機にアクセスして、計算結果が低くなるように隠蔽する。それを僕もやっていました。

1991年10月30日、海水漏洩に伴う原子炉手動停止事故がありました。この事故は、津波で非常用ディーゼル発電機が使えなくなったら、運転中の原子炉全部が熔融することを予測させました。しかし、安全審査をやっている裏方の中では、津波の発電所襲来を想定するのはタブーでした。

僕は、人間が共存できない物質を作り続けることに矛盾を感じ、嫌気がさしました。

原子力がないと、今の生活は成り立たないというのはウソです。各家庭の電気ポットを全部やめて魔法瓶に変えると、3機の原発が止められます。

電気には電気にはしか出来ないことをお願いして生活をミニマムに、シンプルにする。エネルギーを大量消費するスタイルから大切に使うスタイルへの転換を呼びかけます。

そうすれば、5年、10年の単位で原発を必要としない段階に入っていけると思います。ピンチをチャンスに変える。僕もしゃべるだけでなく、自分自身がモデルになるように生活しつつあるところです。

※当日は木村俊雄さんがパネルやバッテリー
など機材を持参して、生活スタイルに合わせた蓄電方式を説明します。

主催 脱原発へ私たちの暮らしを考える勉強会
呼びかけ 新聞OB会北九州 代表・河野 直重
門司の環境を考える会 代表・森下 宏人
アジアを考える会V2000 代表 内山 信子
連絡先 並波 眞 (093-473-5689)
天野 高達 (093-451-2364)

